



Bird Research Annual Report 2018

バードリサーチ活動報告



NPO法人 バードリサーチ
Japan Bird Research Association



サンコウチョウ (Photo: 所崎 聡)

ごあいさつ

バードリサーチでは、鳥の生態や生息状況に興味を持つ方々と共に、全国各地で調査を展開しています。そして、それらの調査から得られた結果を社会に発信し、野生生物と人間が共存・共生する社会を目指しています。

生物の長期的な生息状況の変化を調べる調査はモニタリング調査と呼ばれており、生態系の移り変わりを把握する上でとても重要です。モニタリング調査によって、身近と思われていた鳥ですら、最近では個体数が減ったことが分かりました。例えば、スズメの数が大きく減少したことが話題となりました。また、サンコウチョウのような森林に生息する鳥類は、最近では分布域が拡大しています。これらの変化は何を示しているのでしょうか。鳥たちの生息状況を把握し、必要ならば保全活動につなげていくためにも、継続的で広範囲のモニタリング調査が求められています。

2018年に実施した調査には、延べ 3,457人の方々にご協力を頂きました。活動にご協力頂き、誠にありがとうございました。2019年もぜひ、バードリサーチの調査にご参加ください。

バードリサーチ 一同

STAFF



左上から
高木憲太郎、加藤貴大、守屋年史、神山和夫、佐藤 望、植田睦之、
加藤ななえ、黒沢令子、三上かつら、平野敏明



スズメ (Photo: 藤井 薫)

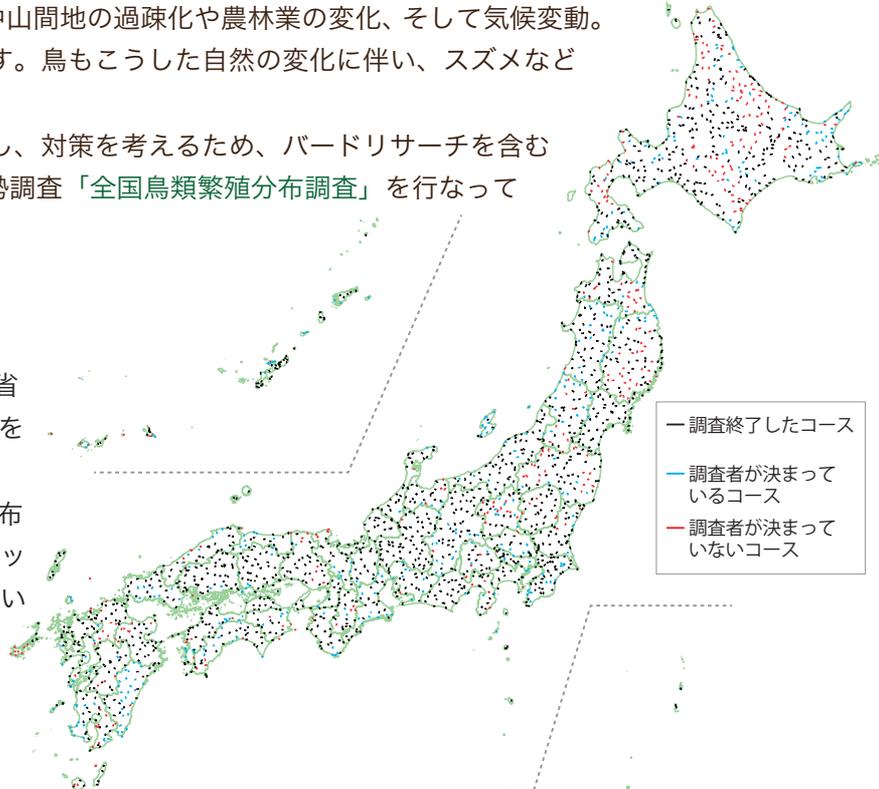
全国繁殖分布調査

しばしば起きる大規模な災害、中山間地の過疎化や農林業の変化、そして気候変動。日本の自然は大きく変化しています。鳥もこうした自然の変化に伴い、スズメなど意外な種が減ったりもしています。

そんな鳥たちの現状を明らかにし、対策を考えるため、バードリサーチを含む複数の NGO が中心となり鳥の国勢調査「全国鳥類繁殖分布調査」を行なっています。

70%以上の調査地で調査が完了

この調査は、1970年代と1990年代に環境省の調査として実施された全国約2300のコースを調査し、アンケート情報を収集することで、2020年までに日本で繁殖するすべての種の分布図を描くことを目指しています。その結果はレッドリストの改定など様々な活動に役立てられます。これまでに1,573人の参加を得て、1,637地点の調査を終えることができました。



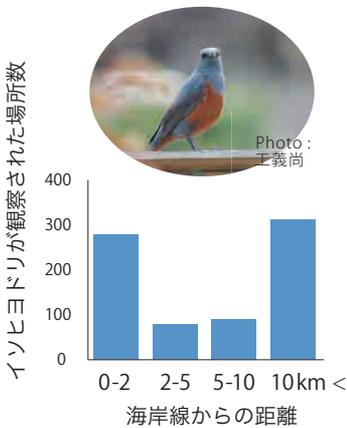
見えてきた日本の鳥の現状

2016年からの3年間の調査でガビチョウなどの外来鳥やアオサギなどの大型の魚食性の鳥、サンコウチョウやアオバトなどの夏鳥や森の鳥の分布が拡大していることがわかりました。逆にゴイサギなど小型の魚食性の種は分布が縮小しており、ビンズイやウソなどの標高の高いところにいる鳥も減少しているようでした。

また、イソヒヨドリやハクセキレイのように内陸へと分布を拡げている鳥、ジョウビタキやミヤマホオジロなど、新たに日本で繁殖するようになった鳥も出てきました。セグロカッコウも広い範囲で記録されており、日本で繁殖しはじめている可能性があります。

◀イソヒヨドリが観察された場所
名前が示す通り海岸（磯）にいる鳥だったが、海岸から10km以上も離れた場所での記録も多くなっている。

新たに日本で繁殖していると思われるセグロカッコウ▼
(Photo: 川又利彦)



調査にぜひご参加ください

たくさんの方の参加と協力で、成果が上がってきていますが、まだまだ調査しなければならないコースがたくさんあります。全コースの調査担当者が決まっている地域もありますが、コースの記録だけではその地域の鳥の分布を明らかにするには不十分で、アンケートによる補完が必要です。この調査の趣旨に賛同いただける皆様、ぜひ調査にご参加ください。



全国鳥類繁殖分布調査

主催団体：バードリサーチ、日本野鳥の会、日本自然保護協会、
日本鳥類標識協会、山階鳥類研究所、環境省生物多様性センター

<http://www.bird-atlas.jp>

調査事務局：バードリサーチ

全国繁殖分布調査ニュースレター

<http://www.bird-atlas.jp/pub.html>

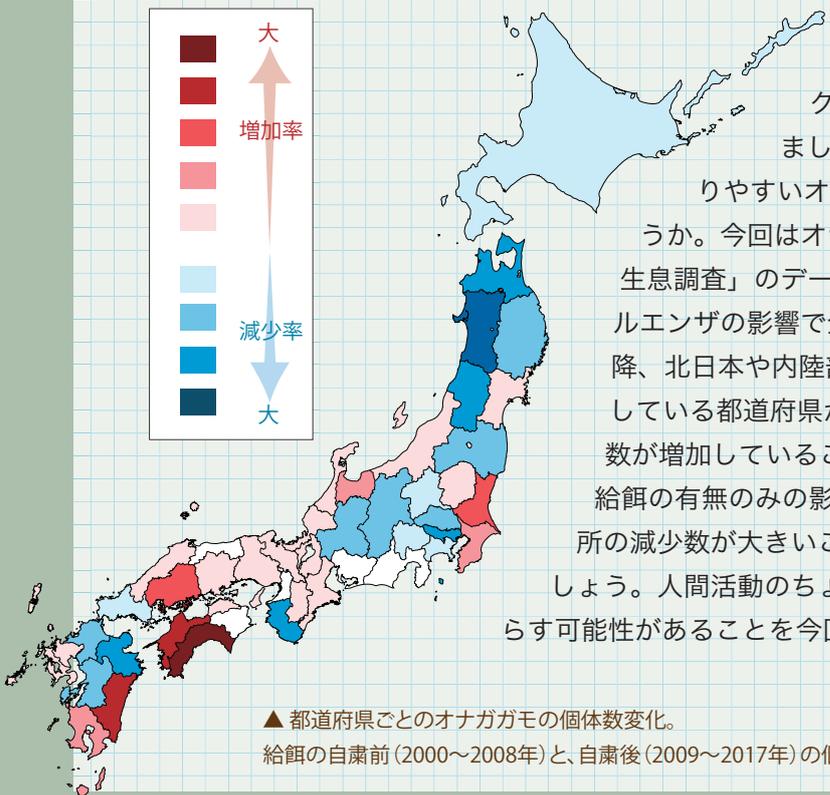
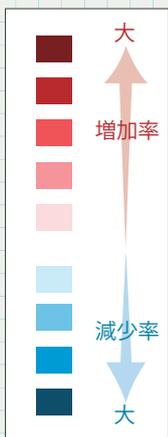


活動報告 その1



オ ナガガモの分布変化

— 給餌の自粛前後で、全国レベルで分布が変化 —



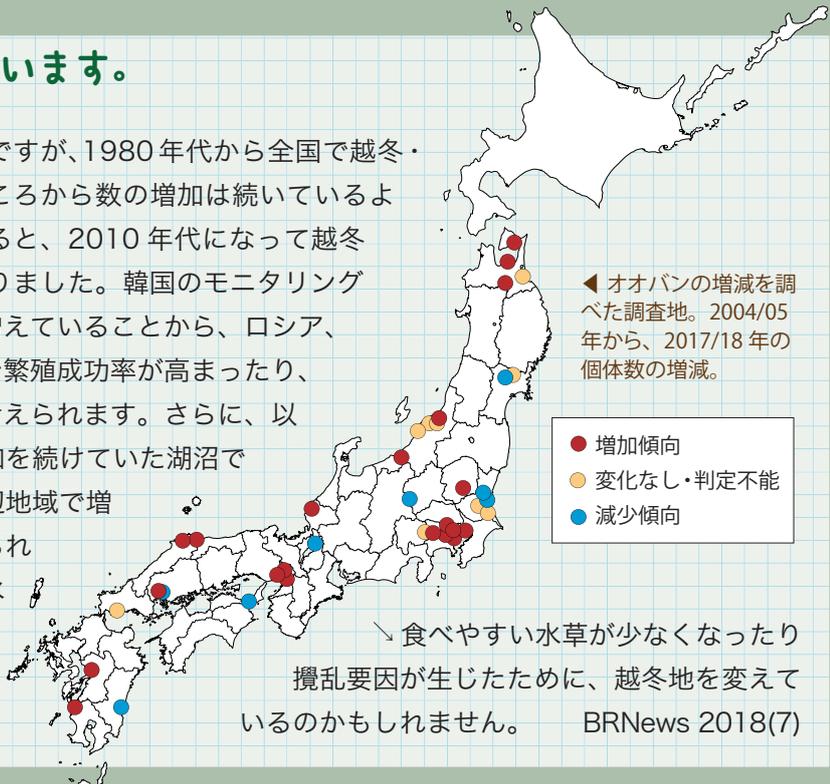
鳥インフルエンザの影響で2008/09年冬からハクチョウやカモへの給餌を自粛する場所が多くなりました。このような時代の流れの中、給餌場所に集まりやすいオナガガモはどのような影響を受けているのでしょうか。今回はオナガガモの分布の変化について、「ガンカモ類の生息調査」のデータを元に分析してみました。その結果、鳥インフルエンザの影響で全国的に給餌の自粛が開始された2009/10年以降、北日本や内陸部、九州北部ではオナガガモの観察個体数が減少している都道府県が多く、西日本や茨城県、千葉県などで観察個体数が増加していることが分かりました。オナガガモの分布の変化が給餌の有無のみの影響とまで言う事はできませんが、給餌をやめた場所の減少数が大きいことから、給餌の有無による影響は少なくないでしょう。人間活動のちょっとした変化によって、鳥に大きな変化をもたらす可能性があることを今回の分析結果は示しています。

BRNews 2018(3)

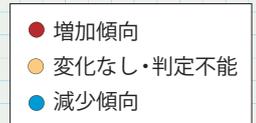
▲ 都道府県ごとのオナガガモの個体数変化。
給餌の自粛前(2000~2008年)と、自粛後(2009~2017年)の個体数の増減。

越 冬期のオオバンが急増しています。

オオバンはかつては珍しい鳥だったのですが、1980年代から全国で越冬・繁殖が見られるようになりました。そのころから数の増加は続いているようですが、オオバンの記録を分析してみると、2010年代になって越冬数が急増している場所が多いことが分かりました。韓国のモニタリング調査の記録を見ても同時期にオオバンが増えていることから、ロシア、モンゴルから中国北部にかけての繁殖地で繁殖成功率が高まったり、繁殖地域が広がったりしている可能性が考えられます。さらに、以前からオオバンが増加を続けていた湖沼でオオバンが減り、周辺地域で増加している傾向も見られました。オオバンは水草を主な食物にしているようですが、



◀ オオバンの増減を調べた調査地。2004/05年から、2017/18年の個体数の増減。



食べやすい水草が少なくなったり攪乱要因が生じたために、越冬地を変えているのかもしれませんが。

食べやすい水草が少なくなったり攪乱要因が生じたために、越冬地を変えているのかもしれませんが。 BRNews 2018(7)





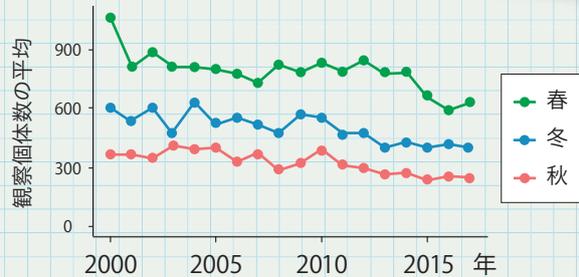
シギ・チドリ類の減少傾向が続く

1970年代に干潟の埋め立てなどによる生息地の減少により、日本国内のシギ・チドリ類は大きく減少しましたが、バードリサーチが事務局を務めるモニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査の結果によると、開発行為が少なくなった近年においても、シギ・チドリ類の減少傾向が継続している事が分かりました。東アジア-オーストラリア地域のフライウェイでは、中継地である黄海・渤海地域の生息環境の悪化、越冬地である東南アジア地域での密猟が懸念されていますが、主にアラスカで繁殖し日本で越冬するような大陸側の経路を利用することが少ないハマシギなども減少傾向が続いており、要因の解明に努める必要があります。



Photo: 藤井薫

日本を中継地として利用するキアシシギの群れ▶



▲日本の湿地を利用するシギ・チドリの観察個体数の経年変化。



森林でさらに進むシカの影響

全国的にシカが増加しています。そしてシカたちが食べるササなどの林床の藪が減少しています。バードリサーチが事務局を務めている環境省のモニタリングサイト1000の調査では、こうした藪の減少が鳥に与える影響が見えてきています。ウグイスやコルリ、コマドリといった、藪で採食し営巣する鳥の減少に加え、藪を営巣場所として利用するエゾムシクイやセンダイムシクイといった鳥たちも減少していることがわかってきました。さらにその影響はこれらの鳥たちに托卵するホトトギスやツツドリといった鳥たちにも影響しているようです。

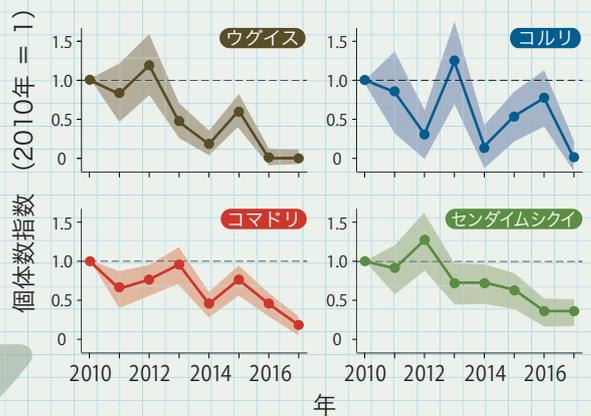
2013年



2018年



▶丹沢の森における植生変化の様子。シカの摂食と開花による枯死で、林床のスズタケがなくなってしまった。



▲埼玉県秩父大山沢における、藪に生息する種の個体数変化。

藪がなくなったことにより、表土がながれてしまい、アカハラなどのミミズ食の鳥へ影響を与える可能性がでてきたり、シカが好まないアセビなどの植物が増えてきて、以前とはちがった形で藪ができ始めたりと、状況は刻々と変化しています。今後もモニタリングを継続して、こうしたことを明らかにしていきたいと思えます。

活動報告 その2



希 少種解除後のオオタカモニタリングがスタート

2017年9月21日。オオタカが種の保存法に基づく「国内希少野生動植物種」から解除されました。解除されることになったのは保護の成果として喜ばしいことなのですが、解除によってオオタカが再び厳しい状況に立たされることがないか、モニタリングしていく必要があります。

バードリサーチは、環境省が立ち上げたこのモニタリングに事務局として関わることになりました。ただ、国によるモニタリングは未来永劫続くものではありません。環境省の調査が終了した後も継続できるようなモニタリング体制として、個人で観察しているオオタカの状況を収集し、状況を把握する仕組みを日本オオタカネットワークなど他のNGOとも連携して実施することにしました。

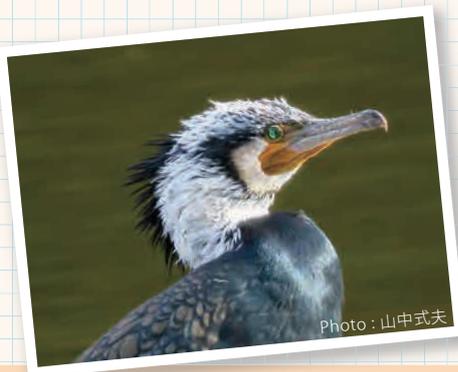
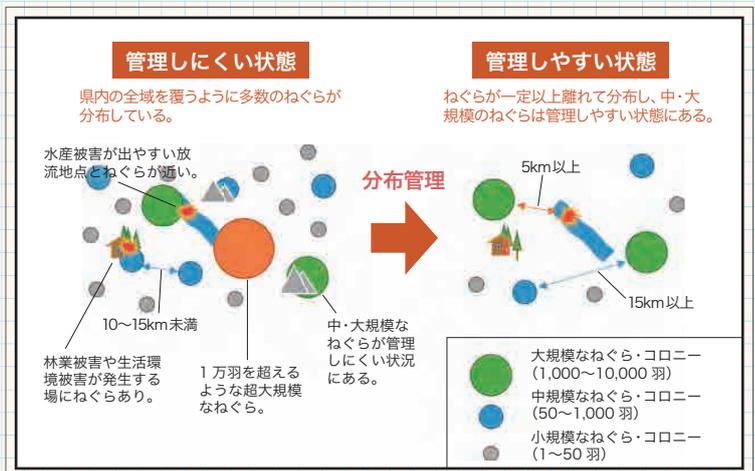
オオタカの観察をされている方は、ぜひご協力をお願いします。もし調査の結果、オオタカがさらに減少し、レッドリストのランク変更が必要になってきたら、このデータをもとに変更を提案していきます。
BRNews 2018(2)

カ ワウのねぐらやコロニーの分布を考える

カワウによる漁業被害の軽減のために、全国で様々な取り組みが行なわれています。ですが、その多くはまだ、漁業者による怒りにまかせた追い払いや駆除。それだけでは、被害は減っていきません。バードリサーチでは、より効率よく被害を減らしていくことで、カワウと人とが共存できる道を探しています。その取り組みの一つとして、正しい個体群管理の考え方の普及にも努めています。

対象を殺して減らすこと（個体数調整）

に重点が置かれることの多い哺乳類の管理の中であって、それではうまくいかないのがカワウの管理です。



そこで、重要になるのがねぐらやコロニーの分布を管理する方法（分布管理）。ねぐらやコロニーを被害地から遠ざけると、追い払いなどの防除対策の効果を高めることができます。また、カワウのねぐらやコロニーを対策がしやすい場所に維持することも管理にとって効果的です。そこで今年は、ねぐらやコロニーの分布管理について考え方の整理を行ない、環境省が全国の都道府県向けに発行している小冊子において解説を行ないました。

カワウの保護及び管理に関するレポート（平成29年度版）

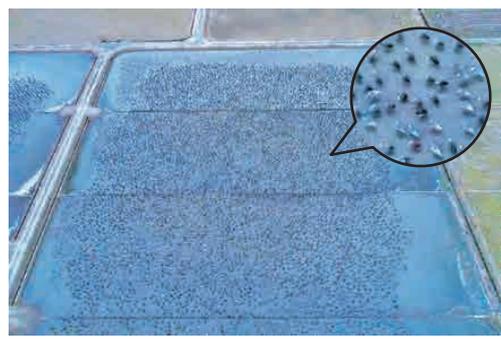
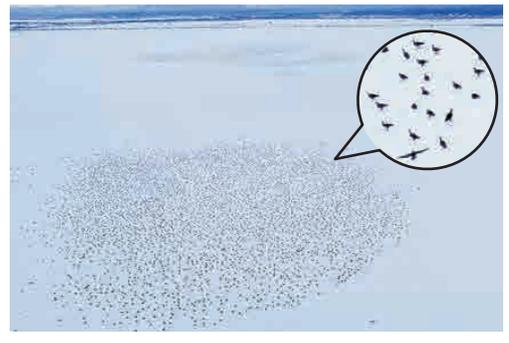
ド

ローンを使った水鳥の個体数調査

近づくことが難しい場所に数千羽から数万羽の群れでいる水鳥は、望遠鏡で見ても個体どうしが重なりあっていて数えることが難しい場合があります。そこで、ドローンを飛ばして空から写真を撮影することで、大群を作る水鳥類を正確にモニタリングする取り組みが各地の湖沼で始まっています。バードリサーチはドローンを使ったカウント方法や、水鳥を警戒させない飛行高度を調べるための試行調査を続けており、目視観察で調査ができない広い湖沼のガンカモ類の群れや、人が接近できないツル類のねぐらなどで空からの撮影を行っています。

BRNews 2018(2)

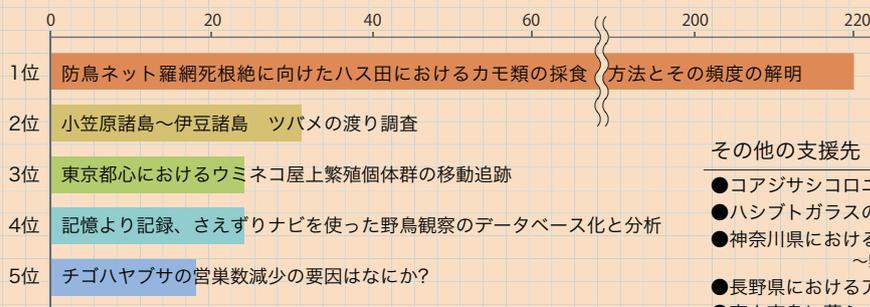
▶凍結した八郎潟調整池の氷上をねぐらにしているマガンの群れ



◀荒崎干拓地(鹿児島県)のナベヅルとマナヅルのねぐら。

バ

ードリサーチ調査研究支援プロジェクト



◀2017年度の支援の得票結果

その他の支援先

- コアジサシコロニーのモビング～さぼっているのは誰だ!～
- ハシトガラスの巣、上から見るか横から見るか
- 神奈川県における野鳥のガラス窓への衝突事故を調査する～野鳥の衝突事故を調査して、その防止策を考える
- 長野県におけるアカモズの生息状況調査
- 南大東島に暮らす亜種ダイトウコノハズクの将来設計～産卵開始を急ぐことは有利な戦略か～

みなさまから少しずつの寄付を募って、それをもとに鳥類の調査や研究を行なう方に支援を行ないました。支援額の総額は144万3千円、これらを得票数で割り振り10件の支援先に贈呈しました。また、2014～2016年度の支援先の調査研究成果の報告をもとに、バードリサーチ賞の選考を行ない、サシバプロジェクト in 大阪のサシバの調査研究と西田有佑さんのモズの調査研究の2件が優秀な成果を挙げたとして、15周年記念大会において表彰しました。

BRNews 2018(4)

▼バードリサーチ賞の授賞式の様子。受賞者には株式会社モンベルより副賞の贈呈をいただきました。



学習コンテンツ拡充

TORI-quiz

クイズに答えて野鳥の名前を覚えよう！
ID-BIRD

楽しみながら野鳥の名前を覚えてもらうため、写真画像から野鳥の名前を答えるTORIクイズを作りました。シギ・チドリ編、

ガンカモ編、ワシタカ編、陸の鳥編などがあり、選択式、記述式、時間制限ありの3種類の難易度の異なる出題方法を用意しています。また、カウント編も



トウネン (Photo: 田中美和子)

試作しており、調査の訓練にも役立てないかと考えています。今後は、環境別や間違えやすい種群別、難易度に段階を設けるなどして出題パターンを増やしたり、復習ができるように説明をつけるなどして、野鳥の識別に役立てられるようにしていく予定です。



さえずりナビ

スマホで調べる&記録する！

「さえずりナビ」は、スマートフォン、タブレット、パソコンで利用できる鳴き声図鑑と野鳥記録データベースです。野鳥がいる地点や環境をもとにさえずりナビがそこにいそうな種を表示してくれるので、鳴き声を再生して自分が聞いた鳥の声と同じ種をさがすことができます。そして観察した種をその場でスマートフォンから入力しておき、あとで検索や集計をすることもできます。

みなさまの観察記録は野鳥を守るための貴重なデータです。さえずりナビに入力された記録は、バードリサーチが繁殖分布調査などで分布図を作るときなどに活用されています。



表紙写真：ナベツル (Photo: 中山 司)

特定非営利活動法人 バードリサーチ

〒183-0034 府中市住吉町 1-29-9

Tel / Fax : 042-401-8661

E-mail : br@bird-research.jp

http://www.bird-research.jp

デザイン：いきものパレット

*この活動報告はFSC認証紙を使用しています。